

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400023		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームわくがわ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-2		
自己評価作成日	平成27年12月11日	評価結果市町村受理日	平成28年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400023-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年 1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわくがわは、やんばるの自然に囲まれ羽地内海がみおろせる高台に位置し穏やかな時を過ごせる環境にあります。
 ・入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み支え、支えられる関係を作り開かれたホームを目指しています。
 重度化・看取りに対しては、事業所に看護師、また村内の診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。終末期ケアに関しては要望に応じ、望む方に関しては当事業所での看取りを実地している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は人家や事業所・畑が点在する地域であるが村や区行事に参加し事業所の行事には多数の住民が参加し地域に根差した運営が行われている。入居者の自宅訪問では他の入居者も参加し満開の桜や数十段の階段を車椅子で登り、山頂からの羽地内海の観賞など馴染みの場所を訪れるなど、関係継続を支援している。ケアプランは入居者の主訴を的確に捉え作成し日常支援に生かし、利用者毎の目標、介護計画、支援経過、モニタリングと連動している。当事業所は村や関連医療・介護機関とも連携し研修や勉強会を持ち又職員の資格取得にも積極的で資質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 2月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前、入職時に理念についての勉強会を行い共有できるようにしている。 ホールに掲示しいつでも確認できるようにしている。	「利用者の思いや意向に沿った支援を提供したい」と考え「入居者の安心と満足・地域に一員として・愛と生きがいのある職場」の理念を基に運営方針を掲げ、入居時に事前説明し、研修や個別検討等で共有し活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	夏はバーベキューを行い近隣や地域の方に来てもらい交流し入居者の状態やホームでの生活をみてもらっている。また地元の老人会との交流もあり行事ではホームに来たり公民館に向いたりと交流を深めている。	村・区の福祉祭り・陸上競技大会・健康祭りでは、着付けや舞踊・作品展示・敬老会・カラオケ大会・エイサー・納涼祭等に参加している。事業所主催のバーベキューやクリスマス、馬頭琴演奏会には地域住民や教会関係者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地元の区長さんが参加されグループホームの状況や認知症についての説明を行っている。 村の祭りには入居者の作品を展示し地域の行事に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの活動内容や事故報告を行い参加者の皆さんからの意見を参考に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は年6回定期的に事業所内行事参加を兼ねて、入居者家族・区長・役場職員2名・介護事業有識者4名・職員管理者が参加している。利用者状況や活動報告をし、各委員の意見や提案があり、意見交換している。	今後はより「高齢者がより自分らしく生きられる」地域でのシステム造りを地域代表の委員と事業所職員が協働することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員が2名参加されているその方から村の状況を聞き協力関係が取れるようにしている。	村とは祭り、イベント、防災対策の通知や村内の医療機関で開催する講演会の案内やケアマネの会議等で情報交換や交流し、包括支援センターとは困難事例の相談や入居希望者等を訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を入所時に説明しているやむを得ず身体拘束を行うときは家族へ説明し同意書もらっている。 ミーティングなどで身体拘束についての勉強会を行い具体的な行為を正しく理解できるようにしている。	身体拘束をしない方針を掲げているが、「体動活発で転倒の危険のある入居者に家族の強い要望(何でもよいから転ばないようにしてほしい)」に沿って状況を判断しながらベットに4点柵を使用している。家族への説明や同意書で了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所時やミーティング等で虐待についての勉強会を行い、虐待のないケアに取り組んでいる。		

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで権利擁護について学んでいる。また実際に権利擁護を利用している入居者がいるので流れを掴むことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の説明をし、同意後利用契約書にて契約を行っている。わかりにくいことがないか都度確認しながら契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき意見や要望をもらっている。入居者が意見を言いにくい時などは居室や事務所にて話を聞きプライバシーに配慮し話せる雰囲気作りをしている。意見箱はあるが利用はまだない。	家族の要望は「いつまでも元気で安心して生活してほしい」、入居者は「何もしたくない・読書・家に帰りたい・外出したい等」の要望がある。公民館の図書館を利用したり、自宅訪問・買い物など対応し、日常的に表情や仕草で要望をくみ取るよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者へ意見や提案がしやすい環境を心がけている。またミーティングや日頃の業務での意見も検討し反映できるようにしている。	職員会議や申し送り時に「ベッドの位置・生活リズムの変化・読書好きの利用者に読書コーナーの設置など」入居者の対応を検討し、敬老会・クリスマス等の行事では調理や飾り付けなど職員の得意分野で業務分担している。又介護福祉士等の国家資格取得にも研修等実施し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の登用や、資格者の資格手当などの整備に努めている。また職員の勤務希望に応じて調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングなどで勉強会を行っている。沖縄県グループホーム連絡会主催の講演や勉強会などにも参加しケアの質を高めるように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣するグループホームとは毎日のように職員入居者と交流があり消防訓練では火災通報装置の登録をお互いにし緊急時も助けあえるようにしている。		

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話や生活歴の話題のほか非コミュニケーション等も活用する中で本人の思いや、不安な事、要望などに耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や家族の面会時などに本人と関係が深い方々から関係性や生活歴、要望を聞き今後の支援の方向性を話しあい双方の関係作りとケアに生かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し、何が必要かを見極め、他のサービスの利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の野菜を植え収穫し調理しやすいように野菜のつくろいや料理を作る際の作業を分担し、同じ目的を達成することで関係性を気づいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状態等を面会時や電話で伝え、遠足時などは家族も一緒に参加し食事と一緒に楽しみ、同じ時間を共有することで共に良い関係作りができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への散歩やドライブ等で知人や地域住民との交流がある。家族などが面会時には落ち着いて会話ができるように自室を利用してもらっている。	入居者の多くが「畑が見たい・家に帰りたい・羽地内海や仲原馬場に行きたい」など要望があり、畑や自宅訪問・運天港・仲原馬場を見学したり公民館の図書館を利用したりと馴染みの場所や親戚友人・地域住民との交流は多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを大切に席の調整をしたり利用者同士の関係がうまくいこう支援している。また職員が調整役となることで交流へと結びつけられるように支援している。		

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接するグループホームへ移動になった方に対しては現在も互いに行ききたり行事などで顔をあわす際には関係が継続できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通がちきる入居者には本人の思いを聞き、困っている事や希望に添えるようにしている。思いを伝えられない入居者は表情や家族の面会時に生活史や性格等を聞き入居者の気持ちに近づけるように努めている。	日常支援の中で「何もしたくない・キビ狩り畑仕事をしたい・読書を継続したい・楽器が弾きたい」の思いや意向があり、居室で寛いだり・畑を耕したり収穫したり・読書コーナーを設けたり・自宅からオルガンを持ち込み楽しんでいる。又表情や仕草での把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人家族より聞き取りを行っている。以前のサービスを受けていた職員より情報を得てサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	急にドライブに行きたい等要求があれば天気がよければその日で行けるように支援している。ドライブに行けない入居者等は庭の散歩、花を摘んで生け花をしたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向が計画に反映できるように努めている。 ニーズを確認し新たなニーズが発生した場合はミーティングなどで話し合い対応している。	サービス担当者会議は更新時や状態変化に応じて、利用者、家族、担当者等で開催し「畑をしたい・本を読みたい等」生の発言を取り入れ立案している。又、利用者ごとのモニタリング項目を提示し、目標・介護計画・経過記録・モニタリングと連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録をし、統一したケアを行うように申し送りノートやミーティングなどで共有し実践にいかせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	幻聴や幻視で夜間大声を出す入居者は他入居者の睡眠の妨げにならないように本人、家族に了解を得て居室を変えたりして対応している。		

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村や部落の行事などに参加できるように支援している。(敬老会、村まつり、カラオケ歌謡ショー、エイサーなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所より訪問診療を行っている。地元であるため入居前から受診し顔見知りの関係も多い。以前から利用の専門医の通院は家族に協力してもらいながら適切な医療が受けられるように支援している。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医で、月2回の訪問診療をうけている。専門医への受診は家族対応を基本とし、情報提供は書面にて行っている。受診後は家族より口頭、又は返書にて情報を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察の中で普段と様子が違いや入浴時の皮膚の観察など普段の関わり合いで気づけるようにし異常がある場合は速やかに施設の看護師に連絡し対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変に備え訪問医師とホーム看護師と24時間連絡がとれるようにしている。また病院や近隣の施設へパンフレットや料金表を渡しこちらの情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し入所時に説明し本人や家族の意向を確認している。実際にターミナル期をむかえる時に再度意向を確認し家族の思いを受け止め訪問診療の医師と相談しながら対応している。	重度化した場合における(看取り)の指針を作成し、入居時に家族への説明を行なっている。利用者や家族の意向を踏まえ、医療ニーズが高くなった場合や状態変化に応じて早い段階から、家族、主治医と話し合い、医療の24時間支援体制を構築している。職員研修やマニュアルを作成し、今年度は二人の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所前やミーティングなどで急変時(誤嚥等)の勉強会を行い急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置、スプリンクラーを設置し、1年に2回消防立ち合いの元消防訓練を行い災害対策に努めている。区長さんや近隣の方も火災通報装置に登録してもらい協力していただく体制を取っている。	消防署の立ち会いで日中の通報、避難、消火訓練と夜間の自主避難訓練が行われている。食料や水等の備蓄は1キロ離れた場所にあり、非常災害時の備蓄を再検討している。	非常災害時(台風、地震、津波等)に備えた事業所内での食料の備蓄、備品が望まれる。

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の名前は「さん」をつけて呼び会話時はわかりやすく話すように心がけている。トイレ時はドアを閉め居室内でのパット交換時も陰部を隠しプライバシーに配慮している。	アセスメントから1人1人のこれまでの生活を考慮し、環境を整えている。例えば農作業をしていた方に作物が植えられるような場所を提供したり、プライバシーを損ねわないような声かけの統一、ケアに当たってはプライバシーに配慮した個別支援が計画の中に作成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の希望が言えるように心がけて会話し迷いがあるようなら、いくつかの選択肢を出し自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の好きな方は毎日入浴できるようにし散髪を希望すればすぐに対応している。庭の手入れを希望すれば数分おきの見守りにて対応し可能なかぎり希望にこたえている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時や昼寝後、髪のを乱れを整え入浴前には髪長さや髭の長さを確認し、長いようなら本人に了解を得て散髪、髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が植え付けから日々手入れし収穫した野菜を使用し、各入居者のできるレベルに合わせカットや皮むき、もやしひげとりをお願いし、利用者と職員と一緒に準備から片付けまで行っている。	担当職員が毎食調理し、職員も一緒にいただく。ご家族や近隣からの野菜の差し入れ、利用者が育てた野菜等も取り入れ調理される。利用者と職員で食材の準備や皮むき、刻み、食器の片付け等を行う。おでんパーティーやおやつ作り、時には外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスを考えたメニューを提供し体調や排尿の状況を見て水分も適時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、起床時、口臭がある場合や痰がからんでいる場合など状況に応じ口腔ケアを実地している。また水分でむせる方には誤嚥にならないようハミガキティッシュを使用し口腔ケアを行っている。		

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し入居者一人ひとりの排泄のサイクルを把握し職員間で共有できるようにしている。立位困難の方には職員2人で介助してできるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	排泄支援では利用者の残存機能が発揮できるよう、具体的な支援の方法が介護計画の中に記されている。トイレでの自立に向け排泄チェック表を活用し声かけや誘導、立位困難の方も2人体制で、安全に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便日予防に体操を取り入れている。トイレ介助時腹部マッサージをし便通を促している。便通に良い食事を提供し週に1度配達される豆乳をスープに使用したりホットケーキに混ぜたり工夫し提供している。それでも便がでない時は座薬や下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきと日程を組んでいるが希望で毎日入浴されている入居者もいる。体調に留意し一人ひとりのタイミングにあわせている。拒否があれば時間をあけ声掛けしそれでも拒否あれば翌日に声掛けし希望に添えるようにしている。畑仕事など作業後は入浴日以外でも入浴できるように声かけている。	浴室と脱衣所はドアで仕切られ、冷暖房や椅子、棚が設置されている。浴室にはカーテンで仕切ったトイレがあり、排泄失敗時や利用者のタイミングで使用している。入浴は隔日となっているが、毎日入浴希望や、畑作業後等にも支援している。又、浴槽希望の方には、バスタブを準備し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	菜園手入れやドライブなど日中に活動することで気持ちよく眠れるように支援している。午睡前に体調など状況に応じて本人の意見も確認し休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を看護師が実施し介護職員が投与分らないことがあれば看護師に確認している。体調変化などあれば 報告・観察・記録し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の仕事での経験や趣味を生かし、日常の中で本人の希望に添えるように楽しく穏やかに日々を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の天気や気温に気を配り入居者の行きたい場所を事前に下見し散歩やドライブを行うように支援している。また「菓子パンが買いたい」などの希望には職員と一緒に出かけ支援している。	利用者の希望に沿って、自宅訪問や事業所周围の散歩、近隣の畑の作物収穫や買い物等個別支援している。家族や関係者等を招いてのバーベキューやエイサー、移動水族館見学と日常生活に変化の機会を作っている。又、桜まつり、オクラレルカ等の花見やドライブ等外出支援をしている。	

沖縄県(グループホームわくがわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月のお小遣いを自分で管理されている入居者がおりホーム内の自販機で飲み物を購入しホームまで戻って来られる間の見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や職員の判断にて家族の声を聞かせてあげられるようにいつでも電話を使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的に保つように共有スペースを常に掃除している。また草花を飾ったりイベント時の写真等を飾ったりと生活感や季節感を取り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	玄関を入ると、居間兼食堂と続き、天窗からの採光で明るい造りとなっている。共用空間の一部にはソファが置かれ、利用者は洗濯物等を置むときに利用している。廊下奥には机が置かれ、読書の好きな利用者が利用している。壁面には利用者や職員で制作したパネルの作品や写真等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブル、イス、ソファを置き趣味のある本を選べいつでも読書ができるスペースを設けている。テレビをよく見られる入居者には席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使いた寝具や家具を配置しカベには思い出の写真を飾りまたは好きな音楽がいつでも聞けるように工夫している。	居室はベッド、タンス等が備え付けられ、自作の作品や写真等が貼られている。ベッドの配置は入居時や生活していく中で個々にあった位置にし、夜間の転倒防止や床に臥床したい方の為のマットが準備されている。読書の好きな方で勉強機の持ち込みをしている方もいる。タンスの衣類は、担当者と一緒に整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すり設けており自力でできることは声掛けや見守りを行い新たにわかることは職員で共有できるように常に話し合い安全に配慮できるようにしている。		